



▲登別子育て支援センター

若い世代が安心して子どもを産み育てられる環境整備を進めるため、引き続き、子育て支援センターにおいて、子育て相談や子育て世代・子育て親子の触れ合い交流の場を提供するとともに、0歳から3歳児を対象とした絵本の読み聞かせなどに取り組みます。

また、就労などにより昼間保護者のいない家庭の児童が、放課後や夏休み、冬休みなど、安心して過ごせる場として、本年度は青葉小学校区に児童館を新設し、年内の開設を目指すとともに、引き続き放課後児童クラブと児童館の運営の充実に努めます。

保育所運営については、登別保育所を学校法人に委託し、幼保一元化事業を推進してきました。本年度は、『認定こども園』の認定を目指し、同保育所に併設している『登別子育て支援センター』の運営を学校法人に委託します。

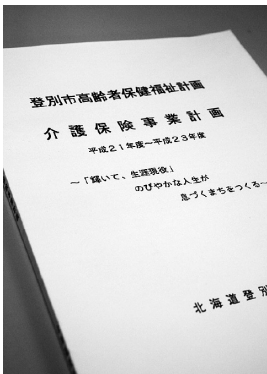
子どもたちの社会性などを養うため、複数の小学校の年齢の異なる児童が放課後、親元から離れ、生活体験や自然体験をしながら学校へ通う『通学合宿事業 みんなで学ぶ「子ども村」』をふおれすと鉾山で実施します。

子育て世代と子どもの生活の改善を図るため、家庭で料理することができるレシピの実演や試食、講座、相談などを行う『家族DE食育 健康のぼりべつ』に取り組みます。

妊婦の健康管理の充実および経済的負担の軽減を図るため、本年度から妊婦健康診査の助成回数を5回から14回に拡大します。

◎高齢者・障がい者福祉

本年度を初年度とした高齢社会をめぐる課題に対する基本的な政策目標と施策を明らかにする『第4期高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画』を本年3月までに策定することとしていきます。この計画の推進について、関係者と連携しながら積極的に取り組みます。



▲第4期高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画

認知症や知的障がい、精神障がいなどの理由で判断能力の不十分な方

を保護および支援する成年後見制度について、本人に身寄りがいないなどの理由で申し立てができない場合、市が申し立てを行う『成年後見制度利用支援事業』を実施します。

市役所本庁舎裏玄関に自動ドアを設置し、高齢者や障がい者をはじめ、すべての市民が利用しやすい施設を目指します。

障がいのある児童生徒への支援については、これまで小中学校に介助員や学習支援補助員を配置していましたが、今後も支援の一層の充実を図るため、必要に応じて増員するなど適切な配置に努めます。

◎健康づくり

市民一人一人が健康づくりの大切さを自覚し、健康づくりに取り組むことができるよう平成17年度からの10年間を計画期間とした『登別市健康増進計画（健康のぼりべつ21）』を策定し、取り組んできましたが、社会情勢などの変化を踏まえ、必要に応じた見直しを行います。

また、登別温泉とカルルス温泉がより市民に親しまれ、健康増進につながるように、温泉入浴と森林浴ウォーキング、足湯の体験を組み入れた健康づくりについて推進します。

◎国民健康保険事業

医療費において大きな割合を占める生活習慣病を予防するため、特定健康診査、特定保健指導の充実を図ります。

また、独自事業である短期人間ドック、脳ドック、各種がん検診およびインフルエンザ予防のための助成を引き続き実施するとともに、体力づくりを促進するため、水中運動教室などの参加費用の助成を継続します。

国保財政の累積収支は、平成20年度末で約5億4千800万円の黒字が見込まれることから、国民健康保険税の医療給付費分の税率を引き下げます。

◎介護保険

『介護給付費準備基金』を取り崩すとともに国から交付される『介護従事者処遇改善臨時特例交付金』を活用し、介護保険料を引き下げます。

◎登別市社会福祉協議会 創立50周年記念事業への支援

本市の地域福祉の推進役として、市民とともに歩んできた登別市社会福祉協議会が創立50周年を迎えることから、『登別の地域福祉活動50周年記念事業』を支援し、地域福祉の一層の充実に努めます。



▲ふれあいフェスティバルでの高齢者いきいきライフ表彰